

# 短歌道場に挑戦

大和北小では、全学年で短歌づくりに取り組んでいます。経験したこと、感動したことを短歌に表すので、発想力や表現力が身につけていきます。この取組をさらに発展させたのが短歌道場です。

短歌道場は、短歌を作るだけとは違い、下記のような活動を行います。

- ① 3～5人のチームを作って短歌を作り、相手チームと短歌の対戦をする。
- ② 対戦では、まず、自分の短歌を読み上げるとともに、何に感動したのか、どんな表現の工夫をしたのかを話す。
- ③ 読み上げた短歌について相手チームが質問し、それに対して返答する。

これにより、**相手意識が生まれ、さらに表現力が高まる**と共に、相手の質問に対して即座に答えなければならぬので、必然的にコミュニケーション能力も高まっていきます。7月2日にはこの短歌道場に6年生が挑戦しました。さらに、7月11日には大和南小学校と短歌道場交流を実施しました。

## 第一弾 大和北小短歌道場校内予選

6年K. Cさんの短歌を紹介します。

【修学旅行中に作成した短歌】

清水の 舞台の下の たくさんの  
柱に光る 職人の力

【学校に戻って推こうし、完成した短歌】

清水の 舞台支える たくさんの  
柱に光る 職人の技



短歌を推こうしたことで表現が変化しています。

「私は、清水の舞台を何百年もの間支え続けている柱を見て、それを作った職人たちはすごいなあと感じたことを短歌にしました。

表現で工夫したことは2つあります。1つ目は、最初は「舞台支える」ではなく「舞台の下」のでしたが、あとで柱という言葉を使うので、それと合うように「支える」にしました。2つ目は、最初は「職人の技」ではなく「職人の力」でしたが、何百年も残る柱は力で作ったのではなく、技で作ったのだと思ったので「職人の技」にしました。

このように短歌道場を意識することで、一度作った短歌に満足するのではなく、自分の感じた思いを、より相手に伝えるためにはどう表現したらよいのかを考えることができました。

## <その他の児童の作品>

- 門くぐり どんと現る 大仏だ 大きな力 ぐっと感じる (M. S)
- ぶたいから 見下ろす京都の 町並の おもかげ写る 今と昔の (S. I)
- キラキラと 大きく光る 金閣寺 私の目にも 小さく映る (A. M)
- 東大寺 ハッと見上げた 大仏を 見てると心が ポカポカしたよ (S. Y)
- 目の前に ドーンと広がる 大仏さん 私の未来 見守るように (H. M)

## 第二弾 大和北小と大和南小の短歌道場交流

それぞれの学校の短歌道場校内予選で勝ち進んだ2グループが、各学校の代表として出場しました。これまでは、他校と交流する場合は、バスなどで移動して集まるしかありませんでした。しかし、今回はこうした手間を省き、気軽にいつでも交流できるTV会議システムを利用しました。



パソコンのカメラで、大和北小学校の映像を南小に送ります。(パソコンです)



大和南小学校の映像は、大型TVモニターに映し出されています。

今回のように、他校と交流することで、**他校の文化（短歌の作風の違い）を感じる**ことができました。また、初めて会った同年代の子に質問や感想を話すなどのコミュニケーションを取ったり、この会に向けて、短歌の表現を工夫できたりしました。

TVを通しての交流はこの短歌交流が初めてでしたが、この**TV会議システムを利用して定期的に、短歌に限らず交流を続けていくことで、表現力やコミュニケーションの能力を上げていくことができる**と考えています。また、いずれ大和中学校で会う子どもたちの、準備にもなると考えています。